

# 制服のスカート丈は痴漢被害を予測するか

痴漢被害の類型および被害と露出度の関連の検討

○大高実奈<sup>1</sup>・喜入暁<sup>1</sup>・越智啓太<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>法政大学大学院人文科学研究科・<sup>2</sup>法政大学文学部)

キーワード：痴漢、性犯罪、被害者の服装

## Does short skirt length of school uniform predict possibility of victimization by “Chikan”?

Mina OTAKA<sup>1</sup>, Satoru KIIRE<sup>1</sup> and Keita OCHI<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>Graduate School of Human Science, Hosei Univ., <sup>2</sup>Faculty of Literature, Hosei Univ.)

Key Words: Chikan, Sex Crime, Victim Dress

### 目 的

デートレイプの帰属理論研究において、Workman & Freeburg (1999) は、被害女性のスカートが短いほうが男女ともに被害者へ責任帰属する程度が高くなることを示した。曹・高木 (2005) は、露出度の高い女性の服装が痴漢の原因になるという「痴漢神話」を仮定し、女性はこれを支持しないが男性は支持する傾向があることを明らかにした。しかし、実際の痴漢被害について調査した研究はない。

本研究では、女性が痴漢神話を否定しても、加害者となる男性が痴漢神話を支持すれば、露出度の高い服装が被害を誘発するという仮説の検証を目的とし、同時に、痴漢被害の類型化も試みる。なお、本研究における痴漢の定義は、衣服の上からや身体に直接手で下半身や尻、胸、ふともも等を撫で回す行為、及び密着して身体を執拗に押しつける行為とした。

### 方 法

**面接** 平成 26 年 10 月 14 日から翌 1 月 14 日にかけて、専修大学生田校舎に通う 18～23 歳の女子学生 50 名を対象に半構造化面接を行った。質問項目は痴漢被害の経験数、高校と大学での電車通学区間、身長、高校の制服のスカート丈であった。被害経験のある参加者に対しては、被害事例ごとに被害時の年齢、服装、スカートやパンツの丈、化粧や髪型、時間帯、場所について記憶している限り詳しく聴取した。以下の重回帰分析では欠損のあった 1 名のデータを除いて分析した。

**参加者女性の印象評定** 井上・小林 (1985) の形容詞対と宮本・山本 (1994) の相貌評定尺度から合計 27 項目の印象評定尺度を作成した。面接時に撮影した参加者の胸上写真を提示し、男女 8 名ずつの協力者が 7 件法で印象評定を行った。

### 結 果

**印象評定の因子分析** 印象評定について、重みづけの無い最小二乗法及び直接オブリミン回転による因子分析を行った。分析の結果、「きびきびした女性」、「おとなしい女性」、「色気のない女性」、「輪郭の丸い印象」の 4 因子が抽出された。

**コレスポンデンス分析** 痴漢被害の発生時間帯と場所を変数としてコレスポンデンス分析を行った (Fig. 1)。分析の結果、電車の混雑する時間帯に発生する車両混雑型、混雑度に関係なく電車の座席上で発生する座席上型、暗く人通りの少ない深夜の路上で発生する夜道型の 3 つの型に分類できた。

**重回帰分析** 全タイプの痴漢被害の総経験数を従属変数、印象評定の各因子得点、身長、高校と大学の通学区間、制服のスカート丈を独立変数として重回帰分析 (ステップワイズ法) を行った。分析の結果、制服のスカート丈が痴漢被害経験を予測した ( $R_{adj}^2 = .10, b^* = -.34, F(1, 47) = 6.24, p = .016$ )。ただし、制服のスカート丈は、高校の時の痴漢被害を予測しなかった。また、車両混雑型の痴漢被害を従属変数として同様の重回帰分析を行った結果、大学の通学区間が痴漢被害を予測した ( $R_{adj}^2 = .08, b^* = -.31, F(1, 47) = 4.67, p = .030$ )。

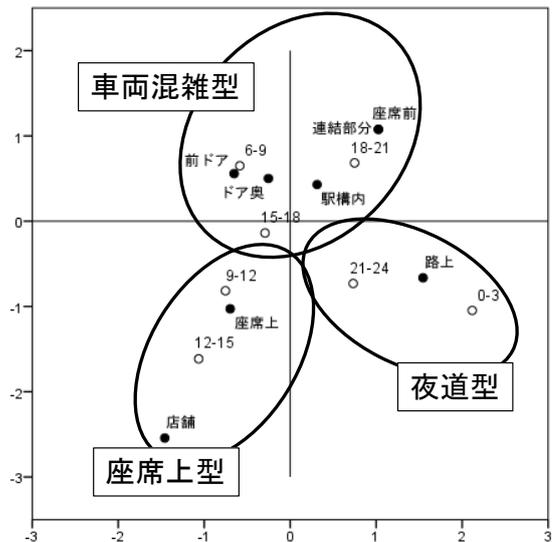


Fig. 1. 被害発生時間帯と場所のコレスポンデンス分析

### 考 察

コレスポンデンス分析の結果、痴漢被害は、車両混雑型、座席上型、夜道型の 3 つのタイプに分類されることが示された。また、制服のスカート丈が短いことが痴漢被害を予測することが示された。しかし高校での被害と制服のスカート丈に有意な関連が示されなかったため、スカート丈が短いことが痴漢被害の直接的な要因ではないことが考えられる。また、大学の通学区間が長いほうが車両混雑型の痴漢被害の経験数が多いことが示された。大学から遠い場所に住む学生は首都圏の実家からの通学者が多い。首都圏のほうが地方より制服のスカートが短い傾向があり、電車も混雑している。これらの媒介変数により制服のスカートが短いと痴漢に遭いやすいという結果が導かれた可能性が考えられるが、今後の検討が必要である。

### 引用文献

- Workman, J. E. & Freeburg, E. W. (1999). An examination of date rape, victim dress, and perceiver variables within the context of attribution theory., *Sex Roles*, **41**, 261-277.
- 井上正明・小林利宜 (1985). 日本における SD 法による研究分野とその形容詞対尺度構成の概観 *教育心理学研究*, **33**, 253-260.
- 宮本聡介・山本真理子 (1994). 相貌特徴が魅力判断および性格判断に与える影響 *筑波大学心理学研究*, **16**, 199-207.
- 曹陽・高木修 (2005). 女性の服装は痴漢被害の原因になるか——「痴漢神話」に関する被服社会心理学的研究—— *繊維製品消費科学*, **46**, 743-747.